

酸塩基触媒として機能する ペロブスカイト酸化物 ナノ粒子の合成

東京工業大学科学技術創成研究院 フロンティア材料研究所 准教授 鎌田 慶吾

2022年11月15日





① d⁰遷移金属からなるペロブスカイト酸化物ナノ粒子の簡便な合成



高表面積ATiO₃

②反応前に触媒の<u>前処理(真空加熱排気)なしでも</u>高活性 O Ph + Me₃Si-CN Catalyst OSiMe₃ Ph CN

反応速度: SrTiO₃ナノ粒子 [<u>131 mmol g⁻¹ h⁻¹]</u>>> Mg(OH)₂ [<u>2</u>] ~ 市販SrTiO₃ [<u>1]</u>



ペロブスカイト酸化物の特長・応用例



Nature 2002, 418, 164.

3



ペロブスカイト酸化物の触媒設計

特長 "構造の多様性", "高い安定性", "物理化学的性質の制御が可能"





ペロブスカイト酸化物の合成例





従来のゾルゲル法による合成の課題











酢酸塩のないd[®]遷移金属を水溶媒に可溶化させる手法の開発がキー



Ti(O-*i*Pr)₄の溶解実験

条件:Ti(O-*i*Pr)₄ (0.1 M), H₂O₂ (0.4 M), ジカルボン酸 (0.4 M), 室温攪拌.

H_2O_2	なし	あり	あり	あり	
ジカルボン酸	なし	なし	リンゴ酸	アスパラギン酸	
結果	白色沈殿	黄色沈殿 一部が溶解	赤色溶液 <mark>完全に溶解</mark>	黄色沈殿 ほぼ全て沈殿	
рH	9.1	3.1	<mark>1.36</mark>	2.94	

他の♂遷移金属の可溶化も確認 → 複合酸化物合成に使用可能 ①V: NH_4VO_3 +アスパラギン酸, ②Zr: $ZrO(OAc)_2$ +アスパラギン酸 ③Nb: Nb(OEt)₅+H₂O₂+リンゴ酸 or Nb(C₂O₄H)₅+シュウ酸









合成結果のまとめ — ATiO₃—



BaTiO₃ (tetragonal) 結晶子径 : 22 nm S_{BET} : 15 m²g⁻¹

リンゴ酸増量







SrTiO₃ (cubic)

結晶子径:31 nm

S_{BET} : 34 m²g⁻¹

MgTiO₃ (trigonal) CaTiO₃ (orthorhombic) 結晶子径:46 nm 結晶子径:29 nm S_{BET}:25 m²g⁻¹ S_{BET}:26 m²g⁻¹









ナノ粒子の集合体が観察・結晶子サイズと良い一致







焼成条件変更による高表面積化

これまでのまとめ

- 1段で調製した前駆体焼成という、<u>多段ステップを必要としない合成法</u> 特長
 - 元素の組み合わせ・組成比の変更により、<u>多様な酸化物合成が可能</u>

課題 → ナノ粒子の凝集に伴う<u>比表面積の低下</u>(分散性を更に上げる必要あり)

<u>今回提案する"雰囲気制御焼成(=流すガスを切り替えるだけ)"の概要</u>





焼成条件の検討 -SrTiO₃-





16



合成結果まとめ 焼成条件: N₂-Air







CaTiO₃ (orthorhombic) 結晶子径: 33 nm S_{BET}= 31 m²g⁻¹



SrTiO₃ (cubic) 結晶子径: 23 nm S_{BET}= 46 m²g⁻¹

BaTiO₃ (tetragonal) 結晶子径: 21 nm S_{BET}= 18 m²g⁻¹













Isolated yields were given.





触媒	反応速度 ^a / µmol g ⁻¹ h ⁻¹	Lewis酸量 ^b /µmol g ⁻¹	v(C=O) / cm ⁻¹	塩基量 ^d / µmol g ⁻ 1	v(C–H) e / cm ⁻¹
SrTiO ₃ _N ₂ -Air	131	19	1673	157	2997
TiO ₂	0	132	1665	13	3007
Mg(OH) ₂	2	4	1677	440	2973

a: Initial rate of cyanosilylation at 273 K without pretreatment.

b: Band corresponding to v16b mode of coordinated pyridine (ϵ (1450)= 2.22 cm µmol⁻¹).

- c: Band corresponding to v(C=O) mode of acetophenone.
- d: CO₂-TPD, catalysts were pretreated at 773 K.
- e: Band corresponding to v(C–H) mode of CHCl₃.

#: Catalysts were evacuated at 573 K for 90 min before IR measurement.

強い酸点のみ(TiO₂) 強い塩基点のみ(Mg(OH)₂) \rightarrow 低活性 中程度の強度の酸点と塩基点 の両方が存在(SrTiO₃ N₂-Air) \rightarrow 高活性







- ・可溶化したTi種を用いて<u>1段で前駆体調製</u>が可能
- ・雰囲気制御焼成法を併用することで、<u>様々な複合酸化物を</u> <u>高表面積化</u>が可能



・酸塩基触媒反応(シアノシリル化反応)に対して、触媒の前処理 を必要とせずに<u>ベンチマーク触媒や市販品よりも高活性</u>





新技術の特徴・従来技術との比較

- ・従来合成技術の問題点であった、多段合成・ 低表面積化を改良することに成功した。
- 従来触媒は反応前に熱処理を必要としていたが、本触媒は前処理することなく性能を単一酸化物の50-100倍まで向上できた。
- 本合成技術の適用により、ペロブスカイト酸化物のみならず多様な元素組成からなる複合酸化物ナノ粒子を低コストで合成できる。



想定される用途

- 本合成技術の特徴を生かした、触媒・誘電
 体・電極材料・熱電変換ナノ材料の製造。
- 特異的な分子活性化能を利用することで、
 多様な反応開発への応用展開が期待。



 ・ 複合酸化物ナノ材料探索や新触媒反応開発
 への展開を考えている企業には、本技術が
 有効と思われる。



本技術に関する知的財産権

- ・ 発明の名称 :ペロブスカイト酸化物の製造方法
- 出願番号 : 特願2022-122525
- 出願人 :東京工業大学
- 発明者 :鎌田 慶吾、原 亨和、相原 健司

産学連携の経歴

本研究成果は、JST研究成果最適展開支援プログラム A-STEP産学共同(育成型)「ペロブスカイト酸化物ナノ粒子 の実用的合成手法の開発と触媒応(JPMJTR20TG)」の支 援を受けて得られた。



お問い合わせ先

東京工業大学 研究・産学連携本部

TEL 03-5734 - 2445FAX 03-5734 - 2482e-mail sangaku@sangaku.titech.ac.jp